

株 主 各 位

京都市南区上鳥羽上調子町5番地
T O W A 株 式 会 社
代表取締役社長 西村 永和

第 32 期 報告書の一部訂正について

拝啓 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、平成 22 年6月 29 日付にてご送付申しあげました当社「第 32 期報告書」に記載の一部に修正すべき点がございましたので、ここに深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり謹んで訂正申し上げます。

なお、修正箇所は下線部のとおりであります。

敬 具

記

1. 「第 32 期 事業報告」(2ページ)

訂 正 前	訂 正 後
<p>概況と今後の見通し</p> <p>半導体メーカー各社の極端な在庫調整により、厳しい事業環境が続いておりましたが、中国市場をはじめとした最終製品の需要が旺盛なことから、足許の市況は好況期とほぼ同水準にまで回復しております。半導体市場は当面、順調な拡大を続けるものと思われ、新しく事業の柱となりつつあるLED事業の伸張と併せて、当社の業績は、大幅な回復が見込まれる状況にあります。</p> <p>しかしながら、半導体市況の変動幅は大きく、その間隔も年々短くなっていることから、中期経営計画にて定めた各戦略を着実に実行し、安定した収益体制を構築するべく、今後とも積極的に取り組んでまいります。</p> <p>なお、<u>2009</u>年3月期の業績は、売上高142億74百万円(前連結会計年度比26億96百万円、23.3%増)、経常損失3億45百万円(前連結会計年度は経常損失36億77百万円)、当期純損失3億30百万円(前連結会計年度は当期純損失41億63百万円)となりました。</p>	<p>概況と今後の見通し</p> <p>半導体メーカー各社の極端な在庫調整により、厳しい事業環境が続いておりましたが、中国市場をはじめとした最終製品の需要が旺盛なことから、足許の市況は好況期とほぼ同水準にまで回復しております。半導体市場は当面、順調な拡大を続けるものと思われ、新しく事業の柱となりつつあるLED事業の伸張と併せて、当社の業績は、大幅な回復が見込まれる状況にあります。</p> <p>しかしながら、半導体市況の変動幅は大きく、その間隔も年々短くなっていることから、中期経営計画にて定めた各戦略を着実に実行し、安定した収益体制を構築するべく、今後とも積極的に取り組んでまいります。</p> <p>なお、<u>2010</u>年3月期の業績は、売上高142億74百万円(前連結会計年度比26億96百万円、23.3%増)、経常損失3億45百万円(前連結会計年度は経常損失36億77百万円)、当期純損失3億30百万円(前連結会計年度は当期純損失41億63百万円)となりました。</p>

以 上